
涙と共に失ったもの

湊 優喜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙と共に失ったもの

【Nコード】

N5690P

【作者名】

湊 優喜

【あらすじ】

泣きながら過ごした夜。

失恋の味。

嘆きながらも、私達は新たな一歩を踏み出すのでしょうか。

苦しくて、苦しくて……。
私は何度も何度も叫び続けた。

知ってる、知ってたんだ……。
自分が傷つくだけだったって。
でも……。でも、諦められなかったのは
きつと

それでもいいと思ったから。

胸が張り裂けそうになるのを必死に抑え込んで、
問いかけ、

心にもないことを答えた。

自問自答、いや自問他答？

あなたはあの人のことが気になって仕方がない。

……。いいえ。

あなたはあの人のことが好きなんだ。

いいえ。

あなたは誰よりもあの人を愛している。

いいえ！！

すべての自問に否定をした。

心の崩れ去っていく音をも無視して。

気づけば外は真っ暗だった。

私が泣き叫ぶ間、振り続けた雨はやみ、月が出ていた。

夜風は私を責めるように吹きたてて。

ただ月だけは優しく慰めてくれた気がしたんだ。

あの人のいた心の中は、もう外のように黒く塗られた。

そう、ときめいていたあの時のように色はなく。

叫びすぎて、泣きすぎて、どうしようもなくて……。

心は無に、いえ、どこかにニゲダシタ。

夜に微かにうつる影。

あの人がこちらにランプを向け、笑いかけていた。

喉を絞って笑いかける人に言う。

「アナタハダレデスカ？」

(後書き)

「涙と共に失ったもの」を読んでいただき、ありがとうございました。

作者の文章力向上のため、感想を書いていただけるとありがたいです。

お願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5690p/>

涙と共に失ったもの

2010年12月18日19時57分発行